

2024年2月16日発行

事務所 武石地域総合センター内

TEL:0268-85-2511

<https://www.s-takeshi.jp>

印刷 中澤印刷株式会社



よいお年を 年末お弁当配布

昨年12月20日(水)、上田市社会福祉協議会武石地区センターでは、武石地区民生児童委員の皆さんにご協力いただき、地域の75歳以上の独居高齢者93人の皆様にお弁当をお配りしました。

この事業は、赤い羽根共同募金の配分金を活用し毎年行っているもので、お弁当の配布を通しふれあいを深め地域の絆を感じていただくとともに、お元気な様子を確認し良い年を迎えていただきたいとの思いで実施しているものです。

当日は、地域の民生委員の皆さんが独居高齢者の各家庭を訪問し、「よいお年をお迎えください」と声をかけながら直接手渡しでお配りしました。高齢者の皆さんからは「毎年楽しみにしています」などの声が聞かれました。

(武石地区センター長 柳沢 渉)



小正月 どんど焼き

1月14日(日)の朝、片羽自治会では原開戸の広場でどんど焼きが行われました。大人や子供50人ほどが集まり、正月飾りや1年家族を見守っただるまなどが焼かれ、まゆ玉を火にかざしている人もいました。近年柳が少なくなり小枝を手に入れるのに苦労したそうです。

移住しました

古川誠さん、明美さん夫妻は小学校2年生の男の子、年中組の女の子の4人家族で余里に移住されました。若い世代の武石移住者ということで、お話をお聞きしました。

誠さんは京都出身で市内の会社勤め、明美さんは千葉出身でダンスインストラクターをされています。上田市秋和に10年以上住んでいて、近辺で家を見つけていたところインターネットでこの家を知り、余里の現地に来て、里山に隣接し畑がある自然環境の良さが気に入ってすぐに移住を決めたとのことでした。

2018年に家を買って、自分でリフォームし、2019年から移住し5年目となります。農地も取得し、200坪ほどの畑で自家用の夏・秋野菜、大豆などを農薬を使わず不耕起栽培を基本にやっています。

生活水は湧き水を利用しているということで、「不便ではないですか」とお聞きすると、「水汲みをするのにそんなに苦労はしていない」とのことでした。消防団に入団するなど地域に溶け込む努力もされています。

地域や市に対し何かこうして欲しいと思うことは？とお聞きすると、「周りの人がとても良くし



てくれるし、これといった不満はありません]とのこと。ただ上の子が小学校に入ったときは余里地区9年ぶりの小学一年生だったそうで、「地区に同世代の子供がいないのはちょっとかわいそう、子どもが増えればいいと思う」とのことでした。

話をうかがい、「とにかく、通勤や買い物など生活の便利さを求めがちの中、自然の魅力が一番とする皆さんもいるのだな」と一種のカルチャーショックでした。地域に空き家が増えています。それが一種の資源、地域の人口増につながる可能性も感じ、それを可能にするのは、地域の受け入れ態勢かなとの思いを強くしました。

番所ヶ原スキー場レストハウス改築



昨年12月28日(木)、番所ヶ原スキー場レストハウスが全面改築され、完成式が行われました。スキー場レストハウスは、1980年スキー場開設時からの建物で40年以上経過し、老朽化・耐震不足、客席数の不足などの問題を抱えていました。

市民の利用のほか、練馬区中学生のスキー教室

の場として毎年17校程度の利用があります。また、近年はスノーボード滑走ができるスキー場として人気が出て、一昨年は10万人、昨シーズンは13万人の利用がありました。

今回は、比較的新しいトイレ棟以外を全面的に改築し、食堂部分は壁や柱がなく広々空間とし、椅子席は200から264へアップされました。

設計・建築の総額は1億9731万円余で、財源は、返済時にはそれぞれ80%、70%の地方交付税が国から手

当される辺地債1億5060万円、過疎債4660万円が主となっています。

ただ、残念なことに今シーズンは降雪が少なく、翌日に予定していたスキー場オープンが、1月8日(月・祝)まで延期となってしまいました。廣川支配人は「これほど遅れたのは、これまで記憶がない」と話していました。

武石峠と美ヶ原・物見石山

郷土史家 見玉卓文

フランス文学者で文芸評論家の中島健藏(1903～79)は、大正10～14年まで旧制松本高等学校で学びますが、昭和9年8月24日の夜、「美ヶ原—^{ふかだ きゅうや}深田久弥に—」と題した次のような作品を書いています。深田久弥(1903～71)は有名な随筆集『日本百名山』(初刊1964)を著した文筆家・登山家です。

—深田君—これは大正12年頃書いた断片だ。僕は今、君からの手紙を受取って、急に古い「和田」の5万と、日誌とを出して、美ヶ原の事を思い出している。“入山^{さんしゅう}辺から三城^{さんじょう}のわきを抜けて、王ヶ鼻へ登るか、袴越^{はかまごし}から武石峠へ出て美ヶ原に泊まるか、あるいは和田へまわって、裏から茶臼に登るか、もう少し計画を大きくすれば、美ヶ原から物見岩を経て、岳ノ湯から丸子に出るか、テント一張あれば思いのままだ。”

松本の町からそう遠くない。日帰りでも西の山を眺めに行くのも悪くあるまい。春の夕方、松本平が一面にれんげ草で紫に燃える美しさも他では見られない。それに、今では武石峠にヒュッテができたような話も聞いた。あの峠の茶屋跡の水は豊富で清冽だ。しかし、今はどうなっているのか。

武石峠の眺望は、日本でも類が少ないと山の知友から聞いている。



武石峠茶屋跡 風穴建物の石垣が残る。武石峠道旧道は⇨の方へ

武石峠の眺望の評判は、何時からなのでしょう。

青山学院大学の教授別所梅之助(1871～1945)は、日本山岳会の機関紙『山岳』(大正4年9月号)に紀行文「雪の武石峠」を寄稿し、蚕種^{さんしゅう}を貯蔵する風穴を守る爺さんに北アルプスの山々の名前を覚えてもらい、峠から見える北アルプスの山々の名前を列記しています。そして、紀行文の末尾に、「武石峠へ行こうという心を起こさせたのは、中村清太郎氏の画である」と書いています。

明治43年3月の『山岳』には、中村清太郎が描いた「冬季 信州武石峠より望める日本アルプス略図」の付録がついていました。中村は、明治43年1月初旬に松本側から武石峠に登り、同紙に「特に日本アルプスの眺望において比類(ひるい)稀(まれ)なる地点なり。従って吾人(ごじん)にとりては見逃し難き峠たるなり」と絶賛の文を載せています。



茶屋から見たであろう眺望(樹木があるため、武石峠から)

現在、峠に武石峠の表示はありません。深いマザサに覆われて半ば朽ちた国定公園の記念碑らしき物があるだけです。国土地理院発行の地形図の武石峠は、約500m東北方の鹿教湯から美ヶ原への廃道との合流点に記されています。何時変更されたのでしょうか、それとも地理院の間違いでしょうか。

かつて武石小学校には、美しの国展望公園から小沢の頭を経て物見石山へ登り、巢栗へ下ってキャンプする登山行事がありました。20年ほど前、ある小学生が物見石山へ登る斜面で黒曜石のナイフ型石器を拾いました。少年の注意力には驚きましたが、約1万3千年前の旧石器時代の石器で、美ヶ原では新発見です。狩りか、それとも別の地域への移動か、小沢の頭と物見石山の間を旧石器時代人が動いていたことが分かります。

昭和54・55年に発掘調査された江戸窄(えどすぼ)遺跡の、約4000年前の縄文時代の施設には鉄平石が使われていました。鉄平石は王が頭付近にしか良いものはありません。縄文人もまた美ヶ原を行き来していたと思われる。



物見石山のナイフ形石器

武石を盛り上げる
人やグループ紹介

武石の人 団体



てづくりこうぼう かいこ工房
滝沢 和子さん

大きなまんまる目のカエルや柴犬のバッグが見る人を引き付けます。また、ふっくらとしたフェルトのドーナツやハンバーグが優しい手触りを伝えています。これらの作品は滝沢さんが全て手作りした物で、主に上田市や松本、長野、小諸、諏訪など周辺地域のマルシェやイベントなどにお店を出して販売をしています。小さな子供さんにとっても人気がありますが、福祉施設の方からも高齢者のリハビリに使用したいとおもちゃをセットで買ってもらったこともあるそうです。手作りを初めて約10年が経ちますが、ここ2、3年はとても忙しくて作品作りが間に合わないとのことでした。

ながら要望やアイデアを聞くことをモットーとしていて、ネットでの販売はしていません。

さらに、「作る人の気持ちが作品に出ます」と手芸作家の方から教えていただき、作業をする時は自分も楽しく作るように心がけています」と話していました。

“おままごと”に使う食材のおもちゃを今後増やしていきたいとのこと、現在、すしとピザの試作品を作っているそうです。食材のおもちゃを使って兄弟でも、親子でも、またお孫さんとでもお話をしながら楽しく遊びができるのではないかと、新しいおもちゃへの想いをふくらませていました。



手作りを始めたきっかけは、息子さんの一歳の誕生日プレゼントにカエルのポーチを作ってあげたことで、とても喜んでくれたそうです。それからは雑誌やネットなどの手芸記事を参考にして、独学で工夫をしながら様々なバッグやおもちゃを作ってきたとのこと。「元々は手先が不器用な方でしたが、やっているうちにハマってしまい、今では何でもできるようにになりました」と滝沢さんは笑っていました。

作品への一番のこだわりは、接着剤を使わないで全てを手縫いで仕上げていることで、赤ちゃんから高齢者の方まで安心して遊べるようにしています。また、お店では、対人販売によりお客さんと話をし

滝沢さんの作品は、下武石「つなぐ家」さんにも少し展示していますので見ることができます。

また、武石で開催されるマルシェやイベントでも「お声がかかれば出店します」とのことですので、今度「かいこ工房」さんのお店を訪れて見てはいかがでしょうか。

「個人のお宅からのご要望にも応じます。何かありましたらお伺いしてお話を聞きますので、お声掛けください」とのことです。

てづくりこうぼう かいこ工房

上田市武石下本入399-1

電話：090-4125-9255

Instagram: kaikokoubou_1011

出店予定など
詳しい情報は
こちら